

（評価実施時期：平成22年8月）

担当部局名：賞勲局

<p>政策名</p>	<p>栄典事務の適切な遂行</p> <p style="text-align: center;">【実績評価方式】</p>	<p>根拠となる法令等（2つまで）</p> <p style="text-align: center;">日本国憲法第7条第7号</p>											
<p>政策概要</p>	<p>我が国の栄典制度は、国家、公共に対する功勞、あるいは社会の各分野における優れた行いを表彰する重要な制度として定着しているところであるが、21世紀を迎え、社会経済情勢の変化に対応したものとするため、栄典制度の見直しを行い、平成15年秋の叙勲及び褒章から現在の制度に移行した。栄典制度の適切な運用に努め、適切な審査を行うとともに、春秋叙勲候補者推薦要綱（平成15年閣議報告）等に定められた総数の発令に努める。</p>												
<p>施策名</p>	<p>①栄典事務の適切な遂行</p>												
<p>評価結果</p>	<p>【総合的評価】</p> <p>栄典制度の適切な運用に努め、適切な審査を行うとともに、春秋叙勲候補者推薦要綱等に定められた総数の発令に努め目標を達成した。</p> <p>一般推薦制度に係る内閣府のホームページへのアクセス数については、広報展開に全72紙による新聞突出しの掲載や内閣府ホームページのトップページでの告知といったこれまではない新しい手法を取り入れるなど、同制度の周知に努めた結果、過去最高を記録した平成17年度には及ばなかったものの、対前年度比で約5,000件の増加となり、目標を達成した。</p> <p style="text-align: center;">＜施策評価結果一覧＞</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">S</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">A</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">B</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">C</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">未集計等</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1 ①</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> </table> <p>（必要性）</p> <p>栄典の授与は、内閣の助言と承認による天皇の国事行為であり、天皇と国民を結ぶ役割を果たしている。栄典制度の在り方に関する懇談会報告書においても、「栄典は、社会に対して国家・公共の観点から評価されるべきものは何かを示す役割を果たしており、価値観が多様化している現代において、個人が他者の存在を認めて社会の構成員としての権利・義務・責任の意識を持つことは、健全な社会が成り立つ上で不可欠である。このような公の精神が広く国民に行きわたる上で、国家・公共への貢献に対し国家がこれにふさわしい評価を行うことは大きな意義がある。」としている。</p> <p>（有効性）</p> <p>栄典制度の改革について（平成14年8月7日）の趣旨を踏まえ、官民比率のバランスに留意し、中堅企業、中小企業の功勞者の発掘や、人目につきにくい分野等において業務に精励した功勞者の発掘、女性の功勞者の発掘、外国人の功勞者の発掘、自己の危険を顧みず人命救助に尽力した者（紅綬褒章）、自ら進んで社会奉仕活動に従事し徳行顕著な者（緑綬褒章）の発掘等に努めるとともに、春秋叙勲候補者推薦要綱等に定められた総数の発令に努めている。一般推薦制度については、積極的な広報活動が奏功し、過去最多となる推薦があった。</p> <p>（効率性）</p> <p>平成15年秋の制度改革以降受章者数が増加したが、審査業務に必要な先例調査や前叙（栄典の候補者が従前に受章した勲章・褒章）調査等を迅速・効率的に処理する栄典事務効率化システムの運用等により業務の効率化を図り、公正かつ適正に対応することができた。同システムは、平成20年度において、利便性の向上及びセキュリティ強化を目的として再構築を行い、業務の更なる効率化を図ったところであり、平成21年度においても、引き続き適切な保守・管理に努め、システムの安定的な運用を図ることにより業務の効率化に寄与した。</p>			S	A	B	C	未集計等	0	1 ①	0	0	0
S	A	B	C	未集計等									
0	1 ①	0	0	0									
<p>反映の方向性</p>	<p>栄典制度が、今後とも、公のために努力している多くの人々の誇り、励みとなるよう、「中央、著名人等に偏ることなく各界各層から幅広く発掘」、「民間分野のうち特に中堅企業、中小企業の功勞者の発掘」、「人目につきにくい分野等において業務に精励した功勞者の発掘」、「女性の功勞者の発掘」など、栄典事務を適切に遂行する上での留意すべき重要な点を踏まえ、制度の適切な運用に努めていく。また、一般推薦制度についても、より多くの国民に同制度を周知するため、政府広報の一層の活用など、引き続き同制度に係る広報活動の強化に努めていくこととしたい。</p> <p style="text-align: center;">＜反映の方向性一覧＞</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">引き続き推進</td> <td style="width: 25%;">拡充等</td> <td style="width: 25%;">改善・見直し</td> <td style="width: 25%;">抜本の見直し</td> <td style="width: 20%;">平成23年度に新設</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			引き続き推進	拡充等	改善・見直し	抜本の見直し	平成23年度に新設	①				
引き続き推進	拡充等	改善・見直し	抜本の見直し	平成23年度に新設									
①													